



2018年7月20日

各 位

会社名 株式会社テ・ウェスタン・セレビテクス研究所
代表者名 代表取締役社長 日高 有一
(コード番号:4576)
問合せ先 取締役総務管理部長 川上 哲也
TEL 052-218-8785

緑内障治療剤「H-1129」のオプション権非行使のお知らせ

当社は、国内の医薬品事業会社との間で2017年2月2日に締結した緑内障治療剤「H-1129」の海外におけるオプション契約について、本日、オプション権を行使しない旨の連絡を受けましたので、お知らせいたします。

「H-1129」の国内の権利は、わかもと製薬株式会社（以下、「わかもと製薬」）にライセンスアウトしており、本日、緑内障・高眼圧症を適応症とした国内後期第Ⅱ相臨床試験が良好な結果で終了いたしました。オプション権が行使されなかったことによる「H-1129」の国内開発に影響はなく、現在、本試験結果に基づき、わかもと製薬にて国内第Ⅲ相臨床試験に向けた準備が進められております（わかもと製薬の開発コード：「WP-1303」）。

また、「H-1129」の海外権利につきましては、開発パートナーを見つけるべく、導出に向けたライセンスアウト活動を進めてまいります。

なお、オプション権が行使されなかったことにより、2018年12月期業績予想のレンジ幅の修正が発生いたします。詳細については現在精査中であり、確定次第、改めてお知らせいたします。

H-1129 について

プロテインキナーゼ阻害剤^(注1)を中心とする当社化合物ライブラリー^(注2)のリード化合物を基にして最適化された、緑内障・高眼圧症を適応症とする開発品です。各種プロテインキナーゼ^(注3)を阻害する他に、熱ショックタンパク質^(注4)のHsp90に結合することが確認されており、その結果、線維柱帯-シュレム管を介して主流出路からの房水流出を促進し眼圧を下降させることが示唆されております。

日本における権利は、2013年3月にわかもと製薬にライセンスアウトしており、本日、国内後期第Ⅱ相臨床試験が良好な結果で終了いたしました。現在、本試験結果に基づき、わかもと製薬にて国内第Ⅲ相臨床試験に向けた準備が進められております（わかもと製薬の開発コード：「WP-1303」）。

用語解説

(注1)阻害剤

生体内の様々な酵素分子に結合して、その酵素の活性を低下若しくは消失させる物質を指します。化学物質が特定の酵素の活性を低下若しくは消失させることにより、病気の治療薬として利用されることがあります。

(注2)化合物ライブラリー

化合物ライブラリーとは、当社が長年にわたり蓄積してきた新薬候補化合物のタネとなる化合物群です。これらの化合物の一つ一つが特徴的な性質を有しており、基礎研究や新薬候補化合物発見に利用されます。

(注3)プロテインキナーゼ

ATP(アデノシン三リン酸と言われ、体内で作られる高エネルギー化合物)等、生体においてエネルギーの元となる低分子物質等のリン酸基を、タンパク質分子に転移する(リン酸化)酵素です。一般にリン酸化を触媒する酵素をキナーゼと呼び、特にタンパク質をリン酸化するキナーゼをプロテインキナーゼと言います。

(注4) 熱ショックタンパク質

細胞が熱等のストレス条件下にさらされた際に発現が上昇することで細胞を保護するタンパク質の一群であり、「Hsp90」などのように、それぞれの分子がその分子量に基づいて名づけられています。